山あり谷あり子育て雑感　Vol　2

「兄弟げんかについて思うこと」

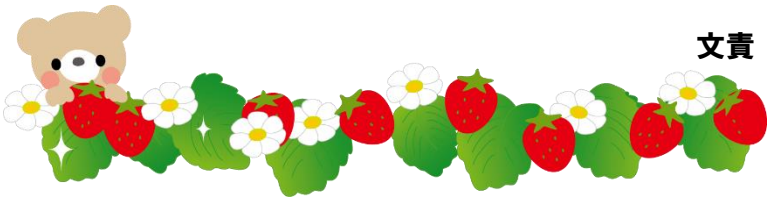
こんにちは。6 月になりましたね。アウトドアシーズン到来です！我が家も早速キャンプの予定を立てています（笑） さて、今回は兄弟げんかについて、少し触れたいと思います。兄弟のいるご家庭は、兄弟げんかについて大なり小なり悩みがあるのではないでしょうか。兄弟の人数や順番、男女、年の離れ方、子どもたちの性質や発達段階、家庭の事情によって色んなパターンが考えられると思います。私なども、三つ子のように年の近い 3 人の子どもを育てる中で、酷い兄弟げんかを見ては心底がっかりしたこともありました。 同じ家族でどうしてここまでぶつかり合うのだろうと人知れず涙することもありました。「兄弟仲良く協力し合う」ことは大人になってからも永遠のテーマではないかと思う程、大事なテーマですよね。そんな時に出会った本、精神科医の明橋大二先生の「子育てハッピーアドバイス」の中で目から鱗の気づきが書かれておりましたので、今日はそれを紹介したいと思います。

明橋先生は、まず基本的に兄弟げんかでは、上の子を叱らないことを提唱しています。もちろん色々な状況があるので、これが常に正しいとは言えない場合がありますが、我々親にとって少なくとも「えっ！？」と驚く一言ではないでしょうか。

なぜ上の子を叱らない方がよいのかというと、兄弟げんかという現象そのものが、他の喧嘩とは違い、「お母さん（お父さん）の愛情の確認作業でもあり、アテンション欲求感情が起因している行為だから」とのこと。 表面的に制止したり、叱ったり、もっと良くないのは「お兄ちゃんなんだから、お姉ちゃんなんだから」という理由で我慢を強要したりすることは、「やっぱりお父さんもお母さんも、自分より下の子の方が可愛いんだ」と感じさせてしまい、逆効果となってしまいます。

一概には言えませんが、一番上のお子さんというと、親も最初の子育てで力が入っていることで、とても真面目でがんばりや、それでいて少々内向的なお子さんであることも多く、少しくらい枠を外しても大丈夫！と伝えてあげるとよいかもしれないですね。（一番上だったお父さん、お母さん！これについて思い当たる節ありますか？　ちなみに私は真ん中です。笑）

また、兄弟げんかには、大人は介入しないことが原則で、兄弟げんかによってこそ、相手の気持ちや痛みも学べるので、決して悪いことだけと思わない。親は後で1人ずつ、話を聞いてフォローしてあげることがポイントだということです。

我々親にとっては、兄弟どの子も大事な大事なかけがえのない子どもです。「兄弟仲良く協力し合って生きていくこと」は今後もひたむきに願いつつも、目の前で起きる兄弟げんかには「いいよいいよ。いずれ兄弟げんかも懐かしくなる日が来るのだから・・」と、どしーんと構えて見守ろうではございませんか。

文責　園長　田野瀬夏子